

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590300018		
法人名	社会福祉法人 相和会		
事業所名	ピハーク横手 グループホームぬくもり(東ユニット)		
所在地	秋田県横手市上境字谷地中136番地		
自己評価作成日	平成30年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の畑にて季節の野菜を育て収穫を楽しんでいるほか、日々の食事に収穫した野菜を取り入れ、入居者の方々とても喜ばれている。同法人で保育園も運営しており交流も多く行われている。季節を感じてられるような行事を多く設け、楽しみをもって生活して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の婦人会による持ち回りの調理ボランティア、「ふれ愛塾」とよばれるホームカフェ、敬老会など地域行事への参加、施設行事への地域の方々との招待等を通じて、意識的に地域とのつながりを持っている。施設内では畑作業を活用し、利用者から育て方を聞いたり、一緒に収穫や下ごしらえをし、食卓に上るまでの日々の活動に活かしている。事業所内で実施するプログラムは利用者の希望や、ボランティアの方それぞれの入り方に応じて柔軟に対応できており喜ばれている。また、看護師2名を擁し、主治医の協力を得ながら、家族の希望を受け重度化や看取りにも、できる範囲で対応し、職員のやりがいにもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットで理念を掲げ毎日唱和を行い理念に沿ったサービス提供につなげている。	年度当初に理念についての話し合いを持ち、検討し決めている。最近は大きく変更はないが、それぞれのユニットで微調整を加えながら作り上げており、毎朝のミーティングの後に唱和している。それぞれの理念は職員に意識され日々の業務に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月婦人会による調理ボランティアや傾聴ボランティア、「ふれあい塾」という茶話会への参加、毎年行われる夏祭り、同法人の保育園との交流を行っている。	食事メニューを考える際に、利用者になじみの献立を、と導入された婦人会持ち回りの調理ボランティア、法人内の保育園との交流、「ふれ愛塾」と呼ばれているホームカフェなどを楽しんで頂いたり、地域との交流が意識的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	問い合わせがあれば行っていると思うが事業所から積極的に行っているかはわからない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、利用者様・利用者ご家族様・婦人会や民生委員・行政職員の方々・施設長・管理者・各ユニット職員・看護師で報告や話し合いを行いそこでの意見はサービス向上に活かされている。	事業所の状況や利用者の生活の様子、健康状態、事故やヒヤリハットなどが主な報告事項となっているが、参加者から質問や意見があり、事業所でサービスの見直しや向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回開催される運営推進会議に参加し、利用者様の様子や事業所で取り組んでいることなど伝え、協力関係を築いている。	運営推進会議で、細かく状況報告を行っており、何かあれば相談できる関係になっている。特別養護老人ホームへの申し込みをしていない方には申し込みを勧められることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会での勉強会が定期的に行われている。身体拘束を行わないケアを職員間やユニットの会議で話し合い実施している。	現在身体拘束をしている方はいない。落ち着かない方がいる場合には見守りと付き添いで対応している。定期的に勉強会も行い、職員の意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や勉強会などを通じ、職員全体で考え話し合い防止に努め、注意を払いながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会がある。また、成年後見制度を利用されている利用者様や、制度を活用しようと考えている利用者様のご家族様等と話し合い、活用の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様等へしっかりと契約の内容を説明し、不安な点や疑問点・意見や要望を聞き、理解と納得をして頂いてから行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時など意見がや要望があった際には運営に反映させられるようにしている。また、運営推進会議の際に意見があればそれらも反映させている。	外部評価と同等の内容で、外部評価緩和年度にも事業所独自で家族アンケートを実施して家族の意向を確認し、運営に反映させている。アンケートには様々な意見が寄せられており、運営に役立っていることが確認できた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が事業所会議で話合ったことを、職員会議やユニット会議でさらに話し合い、意見や提案を聞く機会があり、反映させられている。	それぞれの事業所で話し合われたことがユニット会議や職員会議で吸い上げられ、行事や日常の業務についての意見が現場に反映されている。事業所での話し合いでは全員が発言できるようにしており、意見交換が活発に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力していると感じるが職員個々がやりがいや向上心をもって働いているか言い難い。そのため現在、自己評価制度を導入し職場の環境整備や自己啓発目標を設定し実現に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のケアの実際と力量をすべて把握できているとは言い難いが、施設内外の研修を受けられるよう機会を確保、呼びかけをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム情報交換会や、相互訪問を行い、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の意見や要望を聞き、反映させながら、安心して生活が送れるよう、職員間で情報の共有をして安心した関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりとご家族様の意向や要望を聞き、安心して入居していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様にできることを行って頂くことや、日々の活動に趣味や希望を取り入れて、同じ時間を過ごす中で信頼関係を築き、より良い生活を送っていただけるようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の協力が得られる所は、お願いし、共に支えていく関係を築けている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通っていた病院などへ行けるよう支援している。また、交流会や地域の敬老会、1ヶ月に1回かがやきサロン参加の支援をし、馴染みの関係を大切にしている。	家族と一緒に自宅で過ごす時間を持つたり、同じ法人内の他事業所を利用している家族に会いに行けるような機会を設けたりと、家族の関係継続を支援している。また「ふれ愛塾」や調理ボランティアの活用、地域行事への参加、事業所行事の地域への開放などで地域の方々とのなじみの関係を大切にしている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わりあえるよう職員が仲介役となり声掛けしている。また、利用者様の状態をしっかり把握した上で良好な関係が築けるよう対応している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はほとんど行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様から意思を伝えられる方が少なくなってきたり、職員が利用者様の本人本位に思いや希望、要望を検討していることの方が多く、日々のコミュニケーションやご家族からの意向や要望の把握に努め、サービスへ反映できるようにしている。	日常の何気ない会話から、思いや意向を引き出し、把握できるよう心掛けている。一緒に献立を考えたり、外出の希望を聞いたりし、可能な時には意向に添って、プログラムを工夫し外出したりもしている。最近では畑で収穫したサツマイモを用いて焼き芋会を実施し皆に喜ばれている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様との会話の中から情報を得ることや、ご家族様より情報を得て把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションや支援を通じ、現状の把握に努め、ご本人様が過ごしやすい環境づくりにつなげている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングやユニット会議などを通じ、意見やアイデアを反映し、介護計画作成に努めている。	担当者が主体となって1~2名の利用者の情報や、本人家族の意向などを把握し、定期的にモニタリングを行っている。情報はユニット会議を通して共有され、意見やアイデアが他職員からも出され、計画作成担当者が、まとめ上げている。計画は本人の状況に即してきめ細かく対応できるプランとなっていることが確認できた。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や雑記帳、アセスメント用紙などで情報を共有し、ユニット会議や日々の話し合いで適切なサービス提供に努めて活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	しっかりと地域資源を把握できていないが、安全で豊かな暮らしを送っていただけるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意向を確認し、納得が得られたかかりつけの医師のもとへ受診しており適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に、本人・家族の意向を確認し、希望のかかりつけ医受診を支援している。歯科医は敷地内の他事業所に往診に来るため、必要な際に一緒に診察して頂いている。薬局とも相談し合える関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることや状態の変化があった際、すぐに常勤している看護師へ報告、相談し適切な処置や受診を受けられるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合には、定期的に面会へ行き、状態確認や病院関係者の方々と情報の交換を行い利用者様が安心して治療していただけるよう対応している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でご本人様・ご家族様と話し合い、事業所ですることができるケアを十分説明した上で、その方針をチームで共有し、それに基づき支援するよう取り組んでいる。	早い段階で、事業所の方針を説明するが、家族の意向も変化するためその都度話し合いをしている。職員は看取りの研修を定期的に受け、ここ2年くらいの間に経験も積み、適切な支援ができるようになってきている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修会は定期的にあるものの、実践力が身につけているかは不安である。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練が行われている。他事業所や地域の消防団の方々との協力体制を築いている。	法人内の他事業所や地域の消防団の協力も得て、年2回の避難訓練を行い、夜勤を行う職員は全員が夜間時想定訓練を経験している。実際に2人の夜勤者で利用者全員を避難させる訓練を行っており、実際の訓練となっている。立地的に水害の危険はない。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを尊重した言葉かけで対応するよう心掛けているが、常には行えてはいない。馴染みの言葉を使ってしまったり「待って」などの声掛けをしてしまうことが時折ある。	職員間で具体的な言葉なども確認し合い、気を付けるようにしている。しかし状況によっては口調が強くなってしまったり、制止する言葉を使ってしまったりもあるため、そんな時にはお互い注意し合える関係性を持てるように心掛けている。	これからも、利用者の尊厳を損ねない声掛けを意識し、自身の発する言葉や口調を一人ひとりの職員が客観視し、コントロールできるようになることを期待する。
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身の意思を職員へ伝えられる利用者様は少ないが、出来る限りご本人様の思いや希望を尊重した対応を心掛け、日常生活において自己決定を促すよう選択肢を用意して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になってしまうことあるが、一人ひとりのペースを大切にしご本人様の希望に沿った支援ができるよう努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	すべてがその人らしいとは言えないが、行事の際に化粧をすることや、その日着る衣服を職員と選ばれることもある。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に行って頂ける利用者様は少ないが、職員と一緒に野菜の下ごしらえや盛り付け、おしぼりの準備など行って頂けている。また、利用者様の嗜好を把握し代替えすることもある。さらに行事や季節に合わせた献立を考えて食事を楽しむことが出来るように提供している。	一緒に献立を考え、時には献立に必要な材料をスーパーまで一緒に買いに出かけ、利用者のイメージに合った食材を選んでもらうこともある。また、利用者個々に合わせて、できる下ごしらえを行ってもらったり、片付けを一緒にしたりしている。訪問時には職員の声掛けで他利用者のエプロンを外す手伝いなどを行っている姿が見られた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の摂取量を把握し、個々に合った量を提供している。とろみ剤の使用の有無やミキサー食などの食事形態も一人ひとりの状態に合わせて提供し支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施や歯磨きの声掛けと誘導を行っている。自立の方は見守り、介助を要する方には職員介助行い口腔内の清潔保持している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗が少なくなるよう声掛けをして、トイレ誘導している。	チェック表を活用し、本人の希望でおむつだった方が働きかけでトイレを利用できるようになったり、夜間はリハビリパンツでも日中は布パンツを利用できるようになったりした方もいるなど、自立に向けて実効性のある支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1回は乳製品を提供し、日々の活動で軽体操を取り入れるようにして自然排便を促すよう支援している。また、水分を多めに摂って頂けるよう声掛けし予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に血圧測定と検温を行い健康状態の把握をしている。主に決まった時間・曜日で入浴で、希望浴の日も設けているが、現在は希望を利用者様に聞くと、入浴されていないのが現状である。	特殊浴槽、一般浴槽、個別浴槽と3種類の浴槽を備え、利用者の心身の状況に合わせて、週に2回の入浴を基本とし支援している。特浴の方は希望に添えないが、一般浴の方は個浴を準備し、希望入浴の日も設け、希望者は入れるようにしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態に合わせて、居室や和室・ソファにて安心して休息して頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服されている薬の主作用・副作用の理解に努めて利用者様の症状の変化の確認を行っている。また、内服時には介助、見守りを行い、誤薬がないよう注意し内服して頂いている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみやお茶の準備、テーブル拭きなど役割をもって行って頂いている。また、余暇活動の時間を利用して歌や体操、塗り絵、作品づくりなど楽しみをもって頂けるような支援をしている。さらに誕生日会や季節ごとにドライブに出掛けたりなど気分転換できるように機会をつくっている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望で外出の支援は行えていないが、季節ごとにお花見ドライブを計画し出掛けている。利用者様のご家庭で冠婚葬祭があった際には、参加のための支援を行っている。さらに地域の方々の協力を得て外出や、茶話会、地域の行事に参加している。	季節感を感じて頂けるように、季節ごとのドライブや買い物、地域との交流など外出の機会を持っている。冬場など外出が難しい時期には、ユニット同士の交流機会を持ち、できるだけ開放感を味わってもらえるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者様がご自分でお金を所持していないため施設側で管理している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を書く利用者様はほとんどいない。訴えがあれば行えるよう支援する体制は整っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い清潔に努めている。また、季節ごとに快適で安全に過ごして頂けるよう温度・湿度管理など環境整備している。また、季節に合わせた飾り付けを利用者様と行っている。	共用の空間は、温度や湿度も程よく管理されており、清潔への気配りも十分に快適に安心して過ごせる。西ユニットと東ユニットの間には以前小規模多機能事業所であった空間があり、様々な活動に利用され、開放感を感じさせている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や食席、ソファなど、好きな場所で利用者様同士で談笑される姿や、ゆっくり独りでの時間を過ごされている方など思い思いに過ごして頂いている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの利用者様が自宅で使用していた家具や布団などを使用し、ご家族様の写真や使い慣れたものを居室に設置している。また、室温管理や定期的な掃除を行うことで居心地良く過ごせる配慮をしている。	持ち込みは自由で、それぞれがなじみの家具を置き、居心地よく過ごせるようになっている。壁には家族やホームで撮った写真なども貼られており、一人ひとりの個性が感じ取れる。コールが使えない方には、コール代わりにセンサーマットが置かれており、安全への配慮がなされている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの目印(のれんや「トイレ」とわかるような表記)や、ご自身の居室がわかるよう表札があり工夫がされている。また、転倒などのリスクのある危険物や障害物を排除し安全に過ごして頂けるよう環境整備や目配りに努めている。		